



池田市民文化会館の開館当時から、長年ファンを魅了し続けてきたバロックコンサート。今回の聴きどころは・!?!
日本テレマン協会・音楽監督・CEOの延原武春さんに、お話をうかがいました。

🎵 今年のタイトル「バッハ一族から少年モーツァルトへ」とは？

少しクラシック音楽に詳しい人であれば、バッハはチェンバロで、モーツァルトはピアノで演奏するものだということをご存知だと思います。では、いつ頃からチェンバロはピアノに取って代わられたのでしょうか？

バッハと言えば“大バッハ”（ヨハン・セバスチャン・バッハ1685-1750）ですが、バッハの子どもたちも素敵な音楽をたくさん遺しました。

次男カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ(1714-88)は古典派音楽の基礎を築き、末子ヨハン・クリスティアン・バッハ(1735-82)はモーツァルト(1756-91)にイタリアの新しい趣味を教えたそうです。

バッハ家からモーツァルトへ受け継がれたクラシック音楽の伝統は、チェンバロからピアノへの、すなわちバロックから古典派への変遷をたどるものです。大バッハとモーツァルトの音楽は「バロックと古典派」とバッサリ分断されているかのように思われがちですが、今回の公演は、バッハ一族からモーツァルトへ受け継がれた音楽の伝統を感じていただけるようなプログラムになっています。

🎵 今年設立55周年を迎えられるテレマン協会、円熟期を迎えた活動の今後は？

池田市民文化会館でのコンサートも今回で44回を迎えたんですね。最初の頃はロビーで演奏していた記憶があります。

良い仲間が集まり、お客さんにも育ててもらいました。これからも奇をてらわず地道に活動し、60年、65年と続くようにしたいですね。

🎵 お客様にひとことお願いします。

バッハやモーツァルトの時代のコンサートはこの会場と同じぐらいの距離感で楽しまれていました。舞台と客席が近くて肩肘張らずに楽しめる貴重なコンサートです。

会場でお会いできることを楽しみにしています。